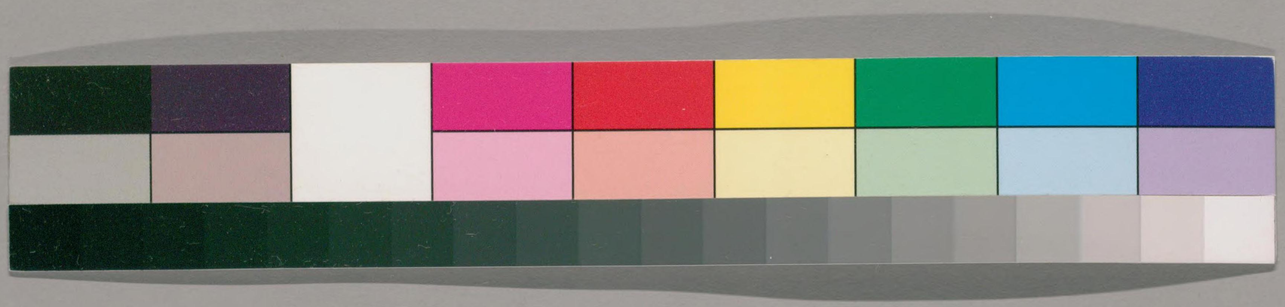
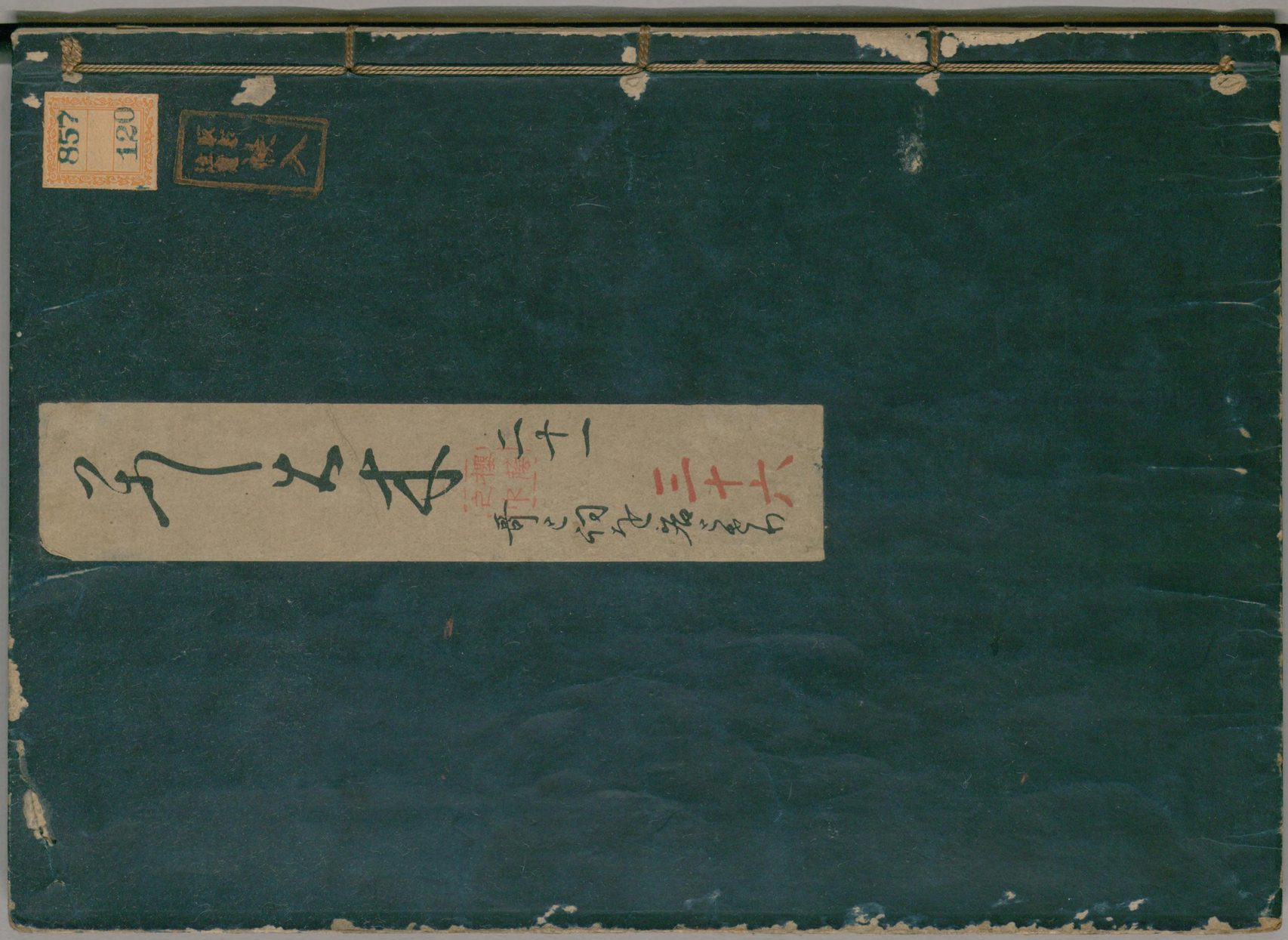




第二十一

哥と詞を若とをわ

三十六

857
120
取扱注意 帙入

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120
ガラス使用

857-120

源氏四十八巻の内より秋そえる巻 梅枝

梅木

帝國圖書館

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

思ひこゞれて、まくらもうさぬぞうり、へやりならず
なぐしそへつゝ、いさくらひまもとて、へぐ立さるを
こまへるほどよりしこゝ此文なれ給、今ハうぎりは
女まて侍ありさ後ハなをのづからきこしめすやうも
侍らんをいかゞなりぬるとぞ、此こゝとぞめさせ
給ひぬもことゝりなれど、いとうくも侍りすとき
こゝろにいとうけなけれど、さふらとこれ
いまはとてもえんかふりもむすぼれたえぬ
思ヒハ粗ケフリニモノコラントヽ
思ひのなをやのこゝろ、衰とこゝろの
どめて、へやりなるぬやこゝまぐりん、こゝちの光にも

思侍らんときこゝ給、侍従にもこりずまゝ衰ぬるす
ぞをいひをとせのへり、こゝげ、いまーこゝびいふ
べきことなどあるものこまへれば、此ひとわらハ
より、さうこゝよりまゝいりかよひ、こゝてまつり
なれこゝへなれば、おほけなき心こそうこて覚く
のへれ、今ハときくハいとかなしうて、なくくなる
このれ、巫誠にこれをとぢめまもこそ侍れと男也
れば、これも外ふかあすかれ心ちして、抱心ぼそかれば
おほかるの衰ぞうりハおもひしらるれど、いとこゝろ
うきことゝ思ひこりましかば、いとうしなんつ
ましこそとてさしまゝいる給ひず、此心のかぎの川よく

づしやうなるはあるまじきなどこそづしげなる人の
かしきの（源のかりくふほのめかれまほ）ほりくまほ
まびしきなるべし（小侍従）されど此祝なるまりなるひて
をめ男ゆれば（女三）さぶらはいぬ（小侍従の例も）とりて志のびて
（柏木のりと侍従の事）よひのまりぶれまりぬ（小侍従）おとゞもうしこ
きをとこなるべくぶらきゝ山よりさうじ出らう（請之）給
うけのて（かぢ）かぢ（舵）をんとし給（こゝ）此終法（をはりのほう）讀經なども
いとおどろくしうさいぶらり人の中まゐり
さ海ぐひぶりぶりげんざなどのおきくよりも
こさうしぶ源さ山まこもりろうなどをもおとうと（柏ノ）
の丞ぶちをいりりつ心
（源仕丈臣寺々山々の異僧を験者をめしあつめ）
づきなるきやまずしどもなどもいとおほくまいる
まづしひ給さ海のそこなもりとなく（もれ）もれをこうろが
そくぶひて（ね）をのことときぐ（ね）なき給陰陽師
などもおほくは女の異（らう）とのこうろなひ（ゆ）れば（さう）
こともやと（ぱう）おぼせど（さ）しる地のけのあらはれいで
ろうもなるきはおもほしまづしひてうろ多ろ海ぐ
（柏木のりと侍従の事）（弁あそうしきぶ）
をもうぶ（おそろしき眠ざしとまゐ）なりこのひぶりもうけるう

葛城山 又和七高山の其一也 古義物語ニ云 役君小角住於葛城山 相伝云 能役鬼神汲水採薪若不用命即以呪縛之云々

づしやかなるにはあらねどはづかしげなる人の御
けしきのをりをりにまほならぬがいとおそろしう
わびしきなるべし。されど御硯などまかなひて
せめきこゆれば、しぶしぶにかい給ふ。とりて志のびて
よひのまぎれにかしこにまゐりぬ。おとゞかしこき
をこなひ人かづらき山よりさうじ出たる待
うけ給て加持まゐらせんとし給。修法読経なども
いとおどろおどろしうさわぎたり。人の申すまゝに
さまざまひじりだつげんざなどのをさをさよにも
きこえず深き山にこもりたるなどをもおとうと
の君たちをつかはしつゝたづねめすにけにくゝ心

づきなき山ぶしどもなどもいとおほくまいる。
わづらひ給さまのそこはかとなくものを心ぼそく
おもひてねをのみときどきなき給。陰陽師
なども、おほくは女の霊とのみうらなひ申ければ、さる
こともやとおぼせど、さらに物のけのあらはれいで
くるもなきに、おぼしわづらひて、かゝるくまぐま
をもたづね給なりけり。このひじりもたけたかやか
に、まぶしつべたましくて、あらゝかにおどろ
おどろしく陀羅尼よむを、いで、あなにくや。つみ
のふかき身にやあらん、だらにの声のたかきは、いと
けおそろしくて、いよいよしぬべくこそおぼゆれとて。

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

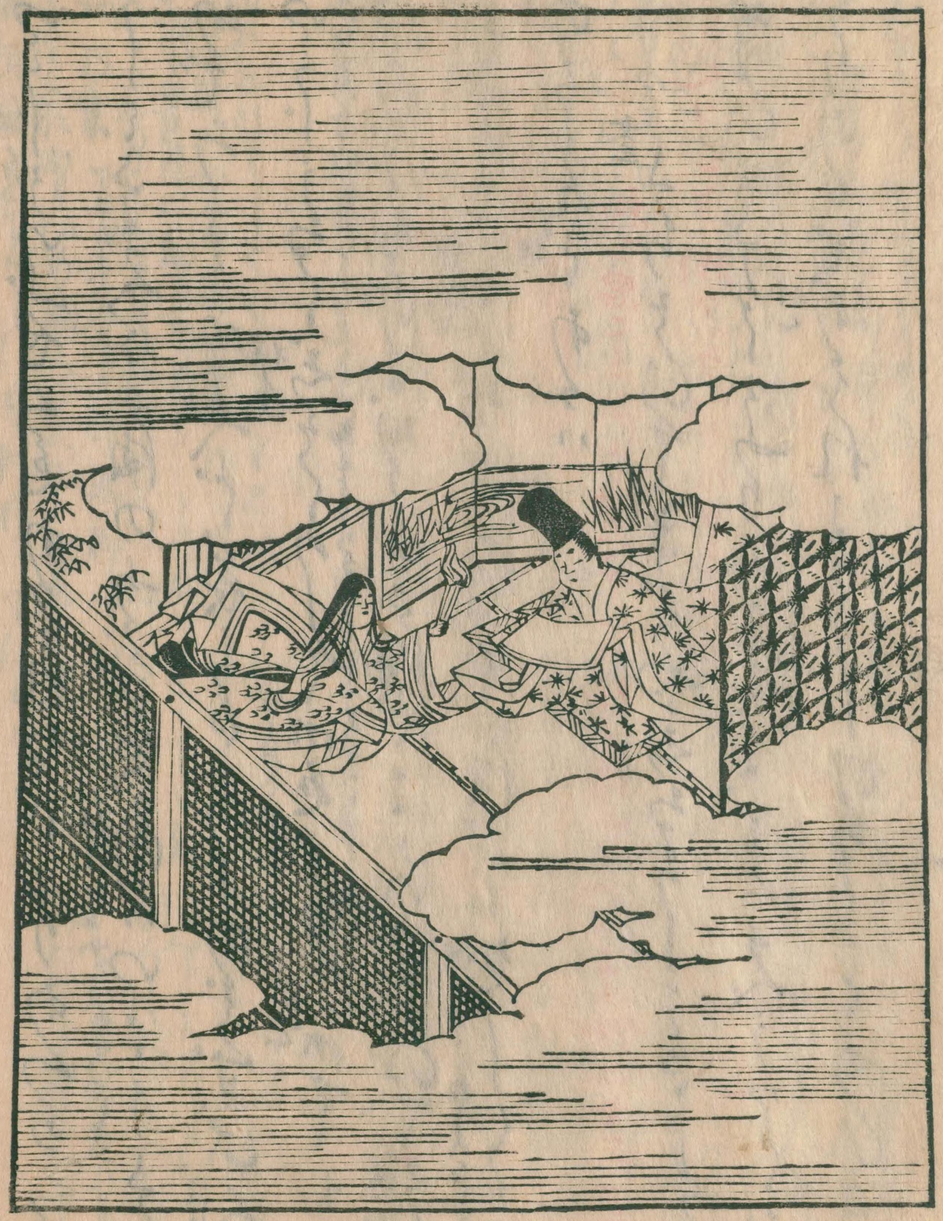
やをらしたべり出て、この侍従とうちしひ給。おとゞは
さもしり給はず。うちやすこうちと人ぐしてやさを
ゐへば、さおぼして、悪びやうまこのひぢりと抑抑
し給。おとゞおびゐへれど、おとゞのかゝりもれどもと
つきて、抱ひしし給おとゞのかゝりもれどもと
むかひゐて、このワづらひそめ給しゐさ夜おまと
もゐくうちゐこつ、をもりゐへること夜ことり
このもれゝけあらりるべく、ねんじたまへおど、こ夜
やうまうしひ給も、いとゝ衣なり。れ男ゐへおまの
つこともおぼしよしぬりしうしるひよりりん女志
まやうこそ、誠まさるれ志りの男まそひたるおしが。

いとしき男をもひきうへやむごとなくこそ女ぬべ
れ、さてもおぼけるきこころありて、さるまじきあや
まちをひきいでゝ、人のれ名をもたてこをもうへり
こゐたゞひむかしのせまもなくやいまけるとしひ
をすま、狂けるひワづらけしうかれ、れこころり。
うるとがをしられなりて、よりまあがしへんことも。
いとまばゆく覚ゆるいげまことあるれひりあるう
べし。うるさあやまちもあるまじ。こゝのそせなりし
夕アの程よりやがてうさこゝぐり。まどひそめにし
に夜しゐの男まもうへらすなりましをかれ院の
うちまあくがれありかんむすびとゞめゐへよまど

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

あまきんを、げゞ世の後さへ忘ふこそくるしかれ。
いかなる昔のちぎりにて、いとかうことしも心に
しきけんと、なくくねざりいでり給ぬれば、何は
むごるむかへすへて、すぐろぐしをさへいませま
ほしう思給をことすくなくてもとしふが哀なるに
えもいでやらず、此ありし夜をめれともかなりて。
いうじ泣まどふ、おとゞなどの思しかる気気ぞ
いふじきや、昨日はふすうしよろしかりつるを、など
かいとよもげにはえし給とさいぎ給、おまにかな紙
とまり給るまじきなりとて罪しまて、こゝげかしも
かい給、こやいひくれつるよりなやましう志のひ

けるを、その此なしきとこまりしりかる人ぐさいぎ
こちて、おとゞにも罪しかれば、おどろきてわたり
なへり、此心のうちまは、おかろちおしや、おもひま
しうるくなくてこまりましかば、先げしく
うれしうしましとおぼせど、人には気色もさじと
おぼせば、ぞんざなどめし、こずほうもいけとなく
ふぐんにきられば、もれぞうぜのなるに、げんあか
うざりこれまいりて、かぢまいりさもぐ、東ひと東
なやこあるさをなひて、日さしあがるほどにむまれ
なぬ、おとゞ、こゝ給に、かく志のびたることの。
あやにくにいちぢるきかつきにて、さしいで

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

ことは御しんとあぢきなきなき。此世のそしつき紙が
しらでかくもれし侍とさそ給れ。かくちことに
てもお夜めしうなつしきき夜ようち悪びや
つれなてうりしきれほうぶくなしぶすぞめれ
れすぐさあらまほしうきよくあるもうしやましく
ことなり給れいのまづ泪おとし給。こぶしひ給れさ夜。
ことなりれなやこまも侍ぶ。こゞ月ごよもり給
へるれ香様にもうぐ志う抱なども来ぬ川もり
まやかくもれし給ことそなどさそ給。かくいら
いうきおましなれどもとて。此丁のまんにれ志とれ
来りていれなり給。こやをもとうへぐつくろひ

罪して。ゆれ志もにおろし給る。此丁すくし
をしやしきなて。よねのうちのそうなどのうち
まれど。文げんつくぢりのとこなひまもあらぬが。
うるさしいるそれど。毎ぼつなく見し給ん
さ夜を。さなぐしこのべきなりとて。れめなしのぐ
ちき給。家もいとよはげにあひこまひて。いくべうも
見し侍ぬを。かくおりしましくるついでに。何まに
なさせのひてよと罪し給。さるれ。いあしだいとこ
ひ来ことなるを。さすぐにかぎしぬ命の程にて。
り来とをき人はかくりてことのこぐれあり。世界
人にそしらるしやうありぬべきことにあんおをもぐ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

[illegible]

ゆるしまけまして院まもいかゞもをんと
おぼしゆるしけるを二和の宮のれことを おもほし
こゞれけるつゐでに中くひ宮ハ りさ紀うしろ
やすくまめやかなるうしろまうけしまへりと
の給ひすと罪給しをかくじけるくせいづ
こすてなりぬるなりとしふまつけてハさ雨く
まいとおしかれど心よりかなる命なれバ こゝへぬ
うしめしうて 笑しなげかれんが心ぐるしきこと
れ心ざしありて とふらひ地をさせまへと ちくうへ
まも 柏ノ 笑ひて給いであかゆしをられなりていく
ぞく世まふべき身とてかうまでりさ紀のことをむ

のこまふとて なきまのこなきまへバ 柏ノ 元 罪しやつ
給ひず 右 柏ノ身 [illegible] 大弁の兵ゆゑ 大かたのことぞハ 大はしう
罪しつけ給 柏ノ 心ぞ人のどうまよくおりしつる兵なれバ
かとうとの兵ゆゑも又すゑぐのつきは おやと
のこれこそしまへるまかう心ぼそうの給を
かなしとせもぬ人なく 柏ノ 殿のうちのひともなげく
おもひとりて今一たびも集り給やうもやあると
おぼしの給をけれど 柏ハ さしまえこゝめしひやり給
もぞくるしきなるまもかしこまり申給おとゞも

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

ありとはまゝにきねて、かすまひきかけてかへり。
病中は其用意面持し
おましのあるりもれきゝけるけちひかうぞしう心
よくぞすきなし、うまんるうちとけながら用意
ありとゝも、ともくつづらひたる人はなれげからか
ミひげもミぐれ、もれむつしきけちひもそふ
けざなりを、やをさしぼひたるしもいよくしたる事く
あてたりなりして、まくらをそばぞてもれなど
ミきてゝ給けたひいとよはげよいきもたえけく
あたれげなり。

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

夕詞
ひさしうわづらひ給へる程よりは、ことにいたうも
そこなはれ給はざりけり。つねの御かたちよりも、
中〱まさりてなん見え給ふとのたまふものから、涙おし
のごひて、をくれさきだつへだてなくとこそちぎりきこえ
しか。いみじうもあるかな。この御心ちのさまを、なに
ごとにておもり給ふとだに、えきゝわき侍らず。かくした
しき程ながら、おぼつかなくのみなどの給ふに、心
ちにはおもくなるけぢめもおぼえ侍らず。そこ所と
くるしき事もなければ、たちまちにかうしも思ひ
給へざりし程に、月日もへでよわり侍りにければ
今はうつし心もうせたるやうになん。をしげ
なき身をさまざまにひきとめらるゝ祈願などの
力にや、さすがにかゝづらふも、中〱くるしう侍
れば、心もてなん、いそぎたつ心ちのし侍る。さるは
この世のわかれさりがたき事は、いとおほうなん。
おやにもつかうまつりさして、今さらに御心どもをなや
まし、君につかうまつることも、なかばの程にて
身をかへりみるかたはた、ましてはかばかしからぬ
うらみをとゞめつるおほかたのなげきをばさるものに
て、又心のうちに思ひ給へみだるゝ事の侍る
をかゝるいまはのきざみにて、なにかはもらすべき
と思ひ侍れど、猶しのびがたき事を、誰にかはうれへ

なくかくとも思へるよしをも罪おどろきなげき
給ことかぎりなうこそ。ぐちおしがり申給めりしが
がなどかくおぼすことあるまでハ。今まで
こいぬひつゝん。こゝるゝかゝるゝあきらめ申べかり
けるを。今いつゝかひなしやとて。さりうへさ
はしくうかなしくうおぼさるけ。いさくうも
つるなり。罪ふかくけるにあらんぞ。されどいと
今日不知死明日不知死何故造作栖安無常心
かうかふあずさしもやはとゝぐらしながらしぬ
命の程をしひのどめ給りけるもちゝなるん。この
ことハさしまれ心よりもしのまじ。さるべき
けいで給ふんなりまハ。用きくかへのへとて。罪し

そくまなん。一条に抱し給家。ことにふれてとつゝひ
罪しなへ心ぐるしさき。まて。院などにもこさらし
めされ給りんを。つゝろひなへなどの給いさ。
をれば出させなひ。手撫ハ人ニシラレジト言ニ不出シテ手ニテイサ
どもちゝうゝ。うへなどおりしつまりて。
人ぐらも立さはげハ。なくく出なひぬ。女れをばさら
にも罪しず。此ちゝのれうゝなどもいうじうなげき
給心をきてのあまりなくへのこれかこ心にものし
給ければ。右の大とれ。小方も。これ志をのこぞ。むつ
ましきもれにしひ罪しなひかれば。よろげしひ

あげきなてれいのりなどとりつきてをきを給ひれど
やむくすりなしのぞかひなきつぎまなんをなる
女宮まもつねまえ對面しまゐしなりで おいのきて
いりやうまてうをなぬ こしぜしたるのころそねん
ごろまふくもなりしが たりるまはいとあらぬ
はしくもてなしつきまゐて けなつしう心
ぞへおりしうちとけぬさ海まてすぐい給ひれど
つきふしもとまるし こゝろくしりけり
此男まて おやしくなべての世すき海じ 心ぬ人
けるなりなりと 心ぞうしいいじうて 覚し
いりくるさ海いと心ぞうし こやしき所も いうじう人

ひとへまぐちおしとこゝなりなげき給ことかぎり
なしおとゞ小方などはまして いかんなるなく 我
こそさ紀ぞめ世のことゝりなり 心ぞうしいことゝて
がれぬへどなまのひなし 何まゝ家はおほけなき
こゝろもうそてのこおぼされて 世まなぐれしも
おぼさゞましとかくなどきゝ給はさすがまいと哀
なりし ひ君のゆしとさぞとせひたりしも
げまかるべき歌まてや せひのかま心うきことも
をかんと覚しよるまさ海ぐ 抱心ぼそうて うち
なれぬぬやよひまなれば 色の気色も抱うらゝ
まてこの君いかのほどまなりなて いとしろうまり

くしう程よりはおよすけて抱れなどし給。おとゞ
けうりなれ。心ちはさきやうは妹きまひまうりや。
いぞやいとかひなくも侍るかれ。例の此ありさ夜
まて。かくこゝろしなしましかば。いかようれしう侍ら
まし。心うく覚しすてけることゝ。同ぐしてうしと
思ひ給。同ぐまつくりなれ。いましもやんごとなく。恨
なきさ夜まもてなし。思ひ給。此いかまもちゐまいしを
給いんとて。かくちことなる。此さ夜を。人ぐいかま
などこそしやすしへど。院にこしをなて。なまか女は
抱し給ひぐこそ。おなじすぢまて。いまくしくも
あしめとて。こゝろおもてまちいさきおましなど

よそひて。まいしを給。此めれといとゝもなやかまさう
ぞきて。此前の抱色こまつくしうる。二抱ひまりでの
心ぜんとてとうちまもとまも。もとの心をしらぬこと
なれば。さりちしおよぶろもなきを。いとこゝろ
ぐるしうぞゆきつぎなりやと。宴もおさね
なて。此ぐしの東の所をうひろうりうるを。いと
くるしとおぼして。ひるいなどなぞつけて。おは
するま。本丁をひきやりて。ねぬへば。いとしらぐし
うてそむきぬへる。いとぶちのさうほそりなて。此
ぐしはおしこきこして。ながうそぎこりなれば。
うしろいとよけぢめもこえ給ひぬ程やすぎく

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　ガラス使用

子孫アル心

五十八翁方有後靜思堪喜

女三 女はらからもまねしもそしりワザ人とるさしもしぬこと
なれば、さぞ一ところのれ心のうちのこそ、衰もかかり
けり人の笑ひなどこそ給ふに、大なるの世にさぞあるきも、
げしつゞけられて、涙のほろ〳〵とこぼれぬるを、
ふいとしつゝすべきにもあらしのゞ入しし

をどゞれとゞあることもあんなん。ふるけいたん
まは女三のれこゝそいとおしくれるゞ見して、女
まもいぶし給ずいと苦なるまゞろちうち給して、
ひぬる。まことうちつきのうれくしきも心
ぞしざんん人はいかゞあらん。な代いとなく拍ノまりひ
なりけりと給ふおやたちのそぶらあれけりと。
ない給ふんまもえこをず人もたれずもるきこと
ぞりをとゞめ来て。さぞうしあがりおもすけうり
し男を心もてうしなひつるよと。衰ながれが
めざ夜しとも心もひきんしうちなれぬひぬ。
人ぞすべりなれる程に女三ゑのれ詞もまりなりて此人

源ノトガ二ヵ所任セテトル

源氏物語

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

をばいつゞ給やかゝる人を持て。そむきまゐ
べき世にやありけり。おれ心うとなどろかしきて
ぬ人ぞ。女三 うちあつめてなりす
ぞ世にかゝれいまさしと人とはぐいつゞ君
れの松にこゝへん。衣なりなど思ひてきて給ふ。女三
いゝ人もなりて。ひれ女三のかゝ有し。ことゝもなりとなげ
をば。志ゐてもきて給ひず。女三ノ心ハ柏木をいかゝあはすらんと源の
かゝりなどいなりせれど。いかでかは。柏ノ事 ぞ女三ノ事 ぞ
しかへしとて給もいと心ぐるしうなん。大将乃
志ハ。拍 心にあまりて。ほのめしきりしをいゝ
なることにあり。すこしもれなげしこゝる夜

ゐらましかば。さぞかりうちおそめたりしまいと
ようこゝろをきてましをいふ。柏木よりいふ。ひなきとぢめにて。
おりあしう。いふせくてあれにもありしかれと。
おもかげ忘がたうて。柏木の主様 ちしかしの志遊よりも。志ゐて
かなしと思ひ。女三 女三ノ心ハ柏木をいかゝあはすらんと源の
ありさ夜。おどろくしきなやこゝにもあらで。すゝ
やかに思ひ。こちけるほどにまゐ。さりともゆるし
ぞ。のべきことゝハ二条のうへの。さばかり限にて。
なくく戸給ときこしをいふじきことゝなりなば
してつゐにかくかけとぞめ。ちりぬるものをなど。
とりあつめて忘らくに。柏ノ事 れ昔ようこゝぞゆゑ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

鐘子期伯牙カ琴ヲ思ニカケルニヤ

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

ねばいつくう心とくめて。ぬるさ海もとひきそ給ひり。
うちうちぞいとまほにかえ(充)もれし給まじかれど。
いとこゝろうるはしいつき程まゞるまあらずも。
柏ノナドテノト心ニフクミテミルヘシ
あどてこゝろめるより人をもおもひあき。又さりまじ
女ミシフクミテ
ヨキト云テモ人ハ只心ヒトツトナリ
きる心をもまどつすべきぞさ海あしや。ふぐ心ぢを
のこしそ。いひもてゆんにハやんごとなりるべけ

いせの海の釣りし
夕れにかゝるふ
こるめる人を
おくよりもなる

天與(クミスルナ)善人(ニ)吾(レ)
不(ス)信(セ)右將軍(ガ)
ツカニ　サテ　キコ土昌

あつしうる海めき。おそにあつぎやうつき。ぬへる
ことのあらびあきあり。これはおしきうもちやうに。

ねばうらう心とゞめて、ぬるさ海もとひきそ給ひり。
ねばいとまれ
かゝちぞいとまほにかえもれし給まじ給れど。
いとこゞろうるはしいたき程まゞるまあらずも。
柏ノナドテノト心ニフクミテミルヘシ
おぼてこゝろめまより人をもおもひおき。又さるまじ
女ミシフクミテ
ヨキト云テモ人ハ只心ヒトツトナリ
いせの海の名ハ
タルにかゝふ
こゝろ心をもまどつすべきぞさ海あしや。ゝゞ心ぢを
あくまもる
のこゝそ。いひもてゆゝんにハやんごとなすゝるべけ

天與ハ善人ニ吾レ
不信セ右将軍ガ
墓草初秋ツカニサテキ
紀在昌
是ハ右将軍保ヤス
忠ノ子ヲ作レル
詩也古大臣ノ
附平見
近代トイヘリ
此韵字ガ詩
秋トアルヲ今アラタメテアシト誦セラレタリ其心優美ナル抽句
和月ノ比ナレバ
秋ノ字ニテハ季言相違ス故ニ附言ノ意氣ニ青シトイヒカヘタル此数多シ
又右馬稽ヲモ
唐名ニ今吾キンゴ
将軍トイヘバ柏木ノ男世保忠ニ似タル故ニカク誦シ行ヒ
ぞさしもあるまじきおほやけびと。女房ぬるとれ年

あつしうる海めき。おてにあつぎやうつき。ぬるる
ことのおしびおきおり。これハおしきうちやうに
おかきよしとふとこゝ給。匂ひぞ。人に似ぬやとうち
さしめさて。おなじうハうやうにても出へ給いまし
かぞしなど人でいふめり。右将軍がつゝ。菓もじめて
あをしとうちくちずきひて。それもいとちゝき世の
ことなれど。さ海ぐちうとをう。心こゝぐるやうなりし。
世中ようきもくぐれるもおしこあらし
ちぬちれきもむべくしきかるをいさうもれ
にて。おやしうなさけをしてゝる人にぞ抱き給れ
ぞさしもあるまじきおほやけびと。女房ぬるとれ年

ゆふきんうつりまきらしめてあをし
弟為大臣の為の時平の弟也保忠の事也と[illegible]
ることをおもしとて[illegible]見んほ保忠のりうとなり[illegible]
とれ将軍とて[illegible]林右将軍墓草[illegible]今吾右将軍[illegible]
軍とも[illegible]右大臣[illegible]
[illegible]
とて[illegible]右将軍と作らる[illegible]
天与善人吾不信右将軍墓草初秋 紀在昌
[illegible]右大臣保忠の墓と作れ給し[illegible]
[illegible]秋のつくなく[illegible]青[illegible]
[illegible]
[illegible]眼のうち[illegible]
[illegible]
[illegible]老[illegible]
宝[illegible]の中一句し[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

是ハ右将軍保
さしめさておもしいふやうにても出へ給いもし
忠ノタメニ作レル
くだしおく人ぐいふめり。右将軍がつかに。草もはじめて
詩也古大臣ノ時平見ル
ぞれもいとちかき世の
近代トイヘリ
あくしとちかくちずき
此韵字ヲ読
ことあれども[illegible]心ぐるしやうなりし。
秋トアルヲ今アラタメテアヲシト誦セラレタリ尤モ心優義千ル拙死
[illegible]もおしこおくうし
卯月ノ比ナレバ世中[illegible]
秋ノ字ニテハ季当ル違スル故ニ時節ノ景気ニ青シトイヒカヘタルハ才数多シ
[illegible]むなべくしきそれいさつまれ
又右大臣ノ名ヲ唐名ニ今吾ト云也
[illegible]けさてうる人まぞ拙志給され
将軍トイヘバ柏木ノ男保忠ニ似タル故ニカク誦シ給フ
さしもおりまきあやけひとよ女房あまどれ年

857
120

ふるめきたるどもさへ、忘るなしひきてゆかまして
うへにはれ遊(こあまび)などのおりごとに、まづおぼし出て
なん。志れずを給ける。おもれ来(柏)の替のといふこと
くさおほまごすまつけてもいりぬ人なし。六条院には、
月ゆきへて、あ月ゆり、深い大かたの世にとらへて、又女三のゆきの、芸をとめたのあり、あるまじ
まして、衣とおぼし出ること。月日にそへて、おぼ
かりごのワ(慧)を、れ(淨)ころひとつにいかくことこなし
なへど、人のおもひよしぬことなれば、いとうひなし。
たひのさうなく、秘例の書とめ、芸をたのかとめとはし、慧
秋つるまなれば、ごの(慧)ゆいまいねざりなど

若菜下ノトメニ四

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』請求記号 857-120
ガラス使用